

磨もだいすまれしなり行平朝臣もさすらひしなり、などひとりかにかくと古を忍びてあかす見まもるほどに、瀧車は容赦なく進みて早くも身は播磨路深く運ばれぬ

わくらははにおりてとはまし須磨の浦や

もしほたれけん人のなこりを

月姫の立ち舞ふ袖にかよふらん

まひ子の涼の松風のおと

明石湯歌のにじりのおもかけを

うつすこよひの月のさやけを

嚴 島

名にしあふ安藝の宮島、我國三景の一と何才の頃よりかきなりしけん。物の本に繪に寫眞に人々の話に見聞してはやくより我心の中に加えられつる宮島はいと小さきものなりき、そは神社の宏壯なるをのみ主として想像したればなり。書物の繪解なども多くは宮居と島居とのみなればなり。即ち殿島といふ島は神社のあるが上に只幾許かの人家あるのみにて、かの江の島と大差なかるべしと思へりしなりき。今このあたりを初めて通る我身の瀧車の中より眺むれば、こはいかに島は我頭の中に加えたるそれに増して更に其幾倍なるを知らず。其思の外なるに呆れて同行の人に笑はれしぞはづかしき。げに百聞は一見に如かずりけり。足かの島の地を踏み親しく宮を拜したらんには、宮のかうくしさも島の大きなる事もさらに明らかなるべけれど、急ぎの旅にはこれもせんなし。只島の大ききの我あやまりをとき得たるをうれしと思ふ間もなく大島居の影は見えずなりぬ。あはれ人に語らんもはづかしきは我あやまりなりけり。

關門海峡

地圖にえがられたる此海峡のへだりを見て、およそこれほどなるべしと例の我頭にえがき居りしを、一とせ都にありける時ある夜人と忍ばずのあたりをそつろありきして、池のあなたの家家の燈火のつらなれるを見て其人の、馬關より門司を見るは此景色に似たりと語るに足まだそこに至らぬおのれは、さばかり近きにや我想はかりきなど語りし事のありけるが、今親しく其地を踏み門司の燈火を此方より望みていかにも忍ばずに似たるかなとたしかめぬ。あくる朝船にて馬關より門司に渡るに、水深けれども狭き此海峡かの巨船ミネソタの通り得ぬもことわりなり。さてはかゝる狭きところの水いと深きもあやしく、太古の歴史にも早瀬の瀬戸の名の見ゆるを見ればそのかみのこゝも今に變らざりけんなどとりまぜて考ふるほどに山陽鐵道の連絡汽船は早くも門司の棧橋に着きぬ。雁と共に越路を立ちて碓氷に霧をうらみ、掛川に残れる夏をしたひ、須磨明石の月をめで、殿島の宮をはるかにるがみたるわれは、かくしてつひに筑紫の人となり了りぬ。

編輯記事

本號には宮川壽美子女史の家庭に関する記事と近藤耕造氏の火なしかまと實驗談とを載する筈でありましたが、兩氏とも非常の多忙にて原稿不切迄に間に合ひませんでしたから次號に譲ること、致しました。

短歌三光には御約束の通り賞品として本誌を月々差上ますから御希望次第至急受取人を御指定下さいまし